

撮影時の判断を助ける サポート機能満載。 軽いので機動力も魅力

Report ● 近藤洋史

Test Report

「製品コンセプトと画質」
ディスプレイやコンバーターで実績のあるエーディテクノから、7型ハイビジョンIPS液晶搭載フィールドモニターの最新モデル「CL76SDIN」が発売されたので詳しく見ていこう。

手にしてみると、まずその軽さに驚く。約550gという重量は魅力で、現場で使う小型モニターは絶対に軽いほうがいい。カメラや三脚にクランプやアームを介して取り付ける際、重いモニターにさらに重いバッテリーを装着すると、クランプ／アームも頑丈なものが必要になり、総重量が増し、ほとんど機動性が悪くなる。それに本体の上部から吊るさないと、ひょんなこと

で首が垂れてお辞儀したりする。7型サイズでこの重量ならアームへの負担が少ないし、下方から支えるのも楽勝で、ジブクレインなどにも安定して使用できる。

ディスプレイの解像感はまずまずで、7型ながら1280×800の高画質IPSパネルなのでフォーカス合わせも苦にならない。手持ちの小型モニターと明るさを比較してみたが、本機が一番明るかった。また上下左右各178度と広視野角でこれら比べてみたが一番いい。比較したモニターは二世代前の他社のものだが、時代が新しいほど確実に進化しているのが分かる。真夏の直射日光下の屋外にも持ち出し

て首が垂れてお辞儀したりする。7型サイズでこの重量ならアームへの負担が少ないし、下方から支えるのも楽勝で、ジブクレインなどにも安定して使用できる。

ディスプレイの解像感はまずまずで、7型ながら1280×800の高画質IPSパネルなのでフォーカス合わせも苦にならない。手持ちの小型モニターと明るさを比較してみたが、本機が一番明るかった。また上下左右各178度と広視野角でこれら比べてみたが一番いい。比較したモニターは二世代前の他社のものだが、時代が新しいほど確実に進化しているのが分かる。真夏の直射日光下の屋外にも持ち出し

えフードなしでは少々キツイ。付属のフードを着用してみたが、直射日光下ではフルフェイスのものが欲しかった。屋外で多用するユーザーは反射防止液晶保護フィルムを試してみるのもいいかもしれない。

「入出力まわり」
入出力は豊富で、1080/60p入力(HDMI)を含め、ほとんどのフォーマットでの映像入出力が可能。このサイズで全入出力をスルーできる出力端子があることは便利だ(ただしSDIをHDMIで出力するといったコンバーター機能は非搭載)。出力端子が乏しいカメラでもモニターしながら別モニターへの出力を同時に送ることができる。



7型IPS液晶フィールドモニター

エーディテクノ

CL76SDIN

オープン価格 (実勢15.4万円前後)

Test Point

この機器の魅力は
画質/機能はどうか

前面に各操作ボタン、裏面に端子類を装備



▲前面パネルで全て調整可能。手前が基本画質の調整ノブ、中央が入力切り替えやメニューボタン、奥がすぐ呼び出せるファンクションボタンなど。



◀入力した信号をそのままスルー出力できる端子類を装備。裏面中央にソニーLバッテリー用プレートがある。VマウントやアontonバッテリープレートをマウントできるVESA規格に対応する。取付ネジ穴もある。

SPECIFICATIONS

液晶モニター	● 7型 (1280×800)、輝度400cd/m ² 、コントラスト比800:1
入出力	● SDI/HDMI/ Y.Pb.Pr (BNC) /ビデオ (BNC)
外形寸法	● 幅187.5×高さ142×奥行34.5mm
質量	● 約550g
発売日	● 2014年8月

明るく視野角も広くて見やすい液晶パネル



▲中央が今回のCL76SDIN、左がTV LogicのVFM-056W、右がパナソニックBT-LH80W（生産完了）。全機種をだいたい同じ明るさに調整後、斜めからチェック。パネル自体の視野角の広さ（上下左右各178°）がよく分かる。このテストでは同条件比較のために輝度を下げているのでCL76SDINは標準ではもっと明るい。

リモートコントローラーも活用したい



▲▶別売コントローラー・NW76N-RMT/3,981円（税抜）でファンクション1~4を呼び出して遠隔操作（有線=USB接続）が可能。ボタンに触るだけで割り当て機能が表示されるので便利。



▶フォールスカラー機能。特定の明るさの範囲を決まった色で表示してくれるので、白飛び箇所などを瞬時に把握できる。

▶ルマアンダー（オーバー）警告機能。オーバーの初期設定では輝度値101を超え白飛びする部分がピンク色になる。上限110で任意調整可能。これは86に変更した例。

撮影の際に使える機能が満載



またEOS 5DマークIIのように撮影時に出力が480pになってしまふ場合など、画角を自動的に合わせてくれる「オートDSLRSケールリング」機能を搭載している。この時、録画スタート後2秒ほどでモニター表示される。切り替わり時に待たされてイライラするものもある中で、これは速いほうだ。ただし、マルチカメラ収録等で複数のカメラを同時に一台のモニターに接続して切り替える際など、入力切り替え時にかかる時間は5秒以上かかるので、頻度の高い入力切り替え使用には向いていない。なお、対応するデジイチの最新の情報は、同社ホームページに機種対応表が掲載されているので参考になるだろう。

前機種から新たにシネマ用途に便利な「表示アスペクト機能」を搭載していて、アナモフィック等さまざまな画角の映像に対応できるのも特徴。マーカーの設定でも、

さまざまな縦横比の赤枠ラインを画面内に表示できるので、使いやすいほうを選択使用するといいたいだろう。

「撮影時の適応機能」

撮影時に環境に適合し素早く判断するためのさまざまな表示機能が用意されている。通常の明るさやコントラスト等の調整のほかに、ピクセル等倍機能、アンダースキャン機能、ピーキング機能、色温度調整、カラー表示モード（RGBモノクロ表示）、フォールスカラー機能、ルマアンダー／ルマオーバー警告などだ。

輝度波形モニターは搭載されていないのだが、それに代わって便利だったのが最後の2つである。フォールスカラー機能は白飛び、黒もぐり、部分的な明るさなど色別に瞬時に呼び出し・判断できるのでひじょうに便利だった。また、白飛びしている部分だけ・黒もぐりしている部分だけを表示するルマアンダー／ルマオーバー警告も設定で任意の範囲に指定できて使いやすい。これらの機能はファンクションボタンに割り当て瞬時に呼び出すことが可能。また、新たに別売のコントローラーを接続すれば、離れた位置からファンクション1~4を呼び出して変更することが可能になった。

「総合評価」

とにかく軽く、明るいところが良い。システムに組み込みやすい、配慮が行き届いたモニターだと思う。ファンクション呼び出しなどたくさん用意されている機能を使いこなせば、撮影時に迅速で正確な対応をするための大きな戦力となるだろう。